

地域における外来ガメの防除、および今後の取り組みについて

大谷健太郎（姫路科学館 ジュニア学芸員）

はじめに

自然系ジュニア学芸員講座で科学館前の淡水亀調査をした際、淡水亀に興味を持ち、自宅近くにある水尾川（姫路城や姫路駅の西側の姫路市街地を流れ、夢前川に流れ込む二級河川）で亀の生態調査を始めた。

ミシシippアカミミガメ（以下、アカミミガメとする）が視認で多く見られたため、アカミミガメが最も多く生息し、次いでクサガメが生息していると予想した。

調査方法

手探りとトラップによる方法を併用して行い、トラップは日光浴罟と餌で誘引するモンドリ（写真1）を使用し、日光浴罟は9～10月、モンドリは6～10月の期間に限定し罟かけを行った。

捕獲した亀は種・雌雄を判別し、背甲長・腹甲長・体重を計測・記録した。新たに捕獲した在来亀（イシガメ・クサガメ）にはナンバリングによる個体識別を行い、放流した。外来亀（ミシシippアカミミガメ）は計測・記録した後持ち帰り、飼育もしくは殺処分を行った。

スッポンのマイクロチップによる個体識別については機械等に多額の費用がかかるため、现阶段では行わず計測と記録を行い放流している。

写真1



写真2（イシガメ）



写真3（クサガメ）



写真4 (スッポン)



写真5 (ミシシippアカミミガメ)

結果

ミシシippアカミミガメ（以下アカミミガメとする）が18頭で最も多く、次いでクサガメが多かった。（延べ個体数の為、正確には13頭）

一方、イシガメ、スッポンの個体数が少なかった（表2）。

スッポンについてはマイクロチップによる個体識別が困難なため、個体識別は行っていない。

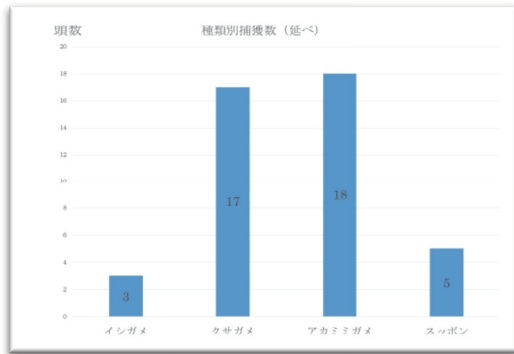
	捕獲個体数	延べ捕獲数		捕獲個体数	延べ捕獲数
イシガメ♀	2	—	クサガメ♀	6	7
イシガメ♂	1	—	クサガメ♂	7	10

表1 捕獲された亀の個体数と延べ個体数

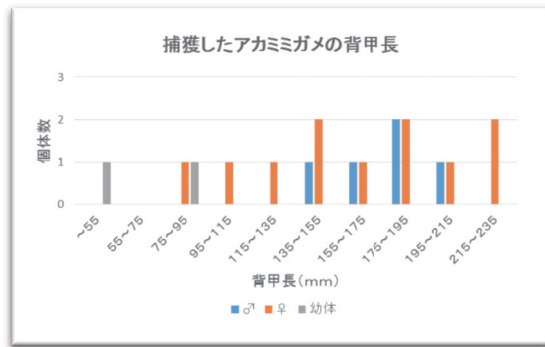
まとめと考察

アカミミガメについて、甲長の大きい個体が多い傾向にあり（グラフ2）、性別では雄がアカミミガメ全体の28%であるのに対し、雌が61%を占めている事より多くのメスがさらに多くのメスを産出しアカミミガメの急激な増加に拍車をかけていると考えられる（グラフ5）。また、中州からは卵が見つまっていることから、再生産が行われ今後も数を増やしていくと考えられる。

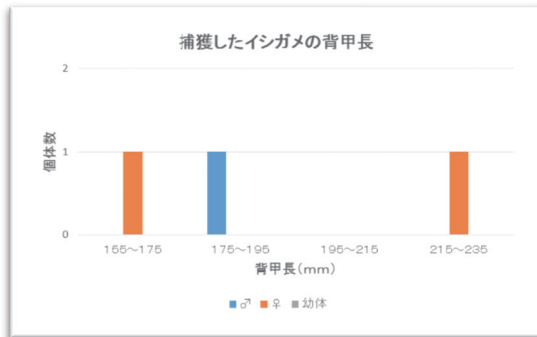
今後の取り組みとしては、引き続き定期的に水尾川で淡水亀の生態調査・アカミミガメの駆除を行い、アカミミガメの密度を低く管理し、空いたニッチ（生態的地位）に在来の亀を含む、在来の生き物が構成する生態系を構築できるようにしていきたい。また、アカミミガメの有効な活用方法の確立や、外来生物が生態系に与える具体的な影響の検証、生物多様性の普及啓発活動等にも携わっていただけたらと思う。



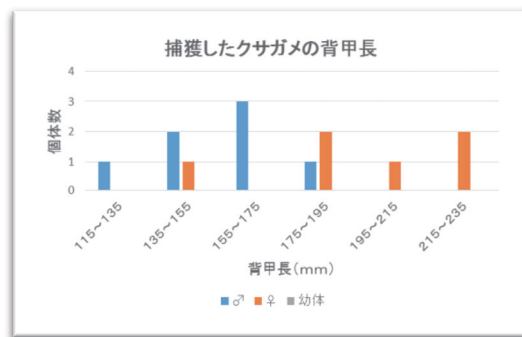
グラフ 1



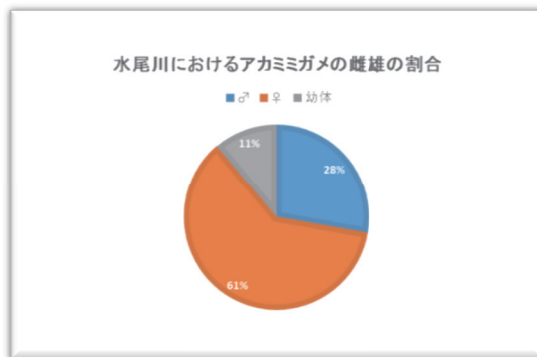
グラフ 2



グラフ 3



グラフ 4



グラフ 5

調査日	イシガメ	クサガメ	アカミミガメ	スッポン
1月11日				
1月20日		2		
2月7日		1	1	
4月12日				
4月22日				
4月29日		1		
5月5日				
5月26日	1	1	4	
6月7日				
6月13日				
6月14日				1
7月15日		1		
8月2日				
8月3日		1	1	
8月10日			1	
8月22日		4	3	
8月23日		1	5	1
9月4日				
9月7日				
9月8日			1	
9月14日		1		3
9月19日				
9月22日				
9月23日		3		
9月28日		1		
10月4日	2		1	
10月8日			1	
10月10日				
10月12日				
11月7日				
計(30回)	3	17	18	5

表 2